

伊賀市障がい者相談支援センター（基幹相談支援）令和3年度実績報告

（令和3年4月1日～令和4年2月28日）

本年度も引き続きコロナ感染防止の取り組みが継続され、各種会議の中止や延期により、伊賀市障がい者地域自立支援協議会や伊賀圏域障がい福祉連絡協議会の部会も計画通りには行えませんでした。

コロナ禍3年目となりましたが、終息の兆しなく緊急事態宣言やまん延防止重点措置により、感染拡大防止対策がとられております。

事業所の一時閉鎖や利用者の自宅待機もあり、福祉サービスの調整だけでなく健康面での配慮も必要でした。

相談業務においては、新規利用者の施設利用制限や入所中や入院中の方の面会が出来なかつたりしており、本来行うべき対応が出来ませんでした。

コロナ禍が長引くことにより、基幹相談支援としての業務は昨年度の継続を行いながら利用者だけでなく家族に対しても今まで以上に福祉サービスに関わらず、精神的な不安や緊急時の相談、対応が求められる状況でした。

1. 総合的な相談・専門的な相談支援を行いました。

内容

障がいのある人やその家族、関係機関などからの相談を受け、必要な助言や情報提供などの支援を行いました。

基本、障がい者相談支援センターで担当相談員が決まっている場合は、担当者が対応しますが、関係機関と担当者だけでは解決に至らない場合には、協働して問題解決に向けて対応いたしました。

また、新規の相談者で関係機関からの紹介時に福祉サービス対象者でない方は、紹介者と共に初期相談を行い方向性が決まれば、障がい者相談支援センターの相談員に引継ぎました。

関係機関からの相談内容としては

- ① 指定特定相談支援事業所からは、困難ケースの対応やサービス担当者会議への参加依頼を受け協働して対応しました。
- ② 介護保険サービスへの移行会議の出席やケアマネの相談を受けました。
- ③ ケアマネからは、介護保険移行後の相談を受けました。
- ④ 伊賀市社協 nest からは、年金や福祉サービス支援の導入についての相談を受けました。
- ⑤ 医療機関からは、入院中の患者や通院患者の退院前の相談を受けました。
- ⑥ 就労関係では、伊賀圏域障がい者就業・生活支援センターのハオからの相談を受け連携して対応しました。
- ⑦ 行政からは、児童相談所、生活支援課、こども未来課からの相談を受けました。
- ⑧ ケース会議やサービス担当者会議に参加しました。
- ⑨ 精神障がい者アウトリーチ体制構築事業を委託している上野病院と連携して対象者の支援にあたりました。

※ 精神障がい者アウトリーチ体制構築事業（三重県委託事業）

この事業は、自らの意志では受診が困難な精神障がい者や受療中断者、長期入院等の後に退院した者等に対して、他職種チームによる訪問支援等により、一定期間、医療・保育・福祉・福祉サービスを包括的に提供し、地域生活が維持できるよう支援するとともに、その体制を整備することを目的とします。

相談件数・連携先

種別	延人数	実人数
児童	12	3
身障	98	10
精神	242	49
知的	258	42
発達	1	1
重心・難病	6	1
その他	7	5
計	624	111

相談方法	本人	家族
来所	34	28
電話	31	36
メール	2	2
計	67	66

関係機関	回数
計画相談	72
ケアマネ	6
事業所	76
医療機関	48
就労関係	10
行政	79
公的機関	2
保育・教育	8
その他	10
計	311

昨年度と比べて、延人数（昨年度 481 名）、実人数（昨年度 98 名）とも増えており、特に知的障がい者の方への対応が、増えました、（昨年度 171 名）

相談方法として、家族からの件数が約倍に増えました。（昨年度 39 件）

関係機関からの相談も増加しました。（昨年度、307 件）

訪問先	回数
自宅	63
事業所	30
医療機関	11
計	104

相談内容	回数
福祉サービス	153
介護保険	13
障害病状理解	69
健康医療	99
不安解消傾聴	3
家族・人間関係	84
家計経済	56
生活技術	26
就労	6
社会参加・余暇活動	20
権利擁護	21
虐待	68
保育教育	16
その他	15
計	649

昨年度と比べて、訪問の回数は増え（昨年度 77 件）、相談内容もコロナ禍の不安な状況が影響したと思われる福祉サービス（昨年度 136）、障がい病状理解（昨年度 23）、健康医療（昨年度 23）、家族、人間関係（昨年度 11）が多く増えました。

また、虐待関係の対応では、養育者だけでなく施設従事者の虐待案件が多く、新規の事案は少ないのですが、聴き取り、調査、今後の支援における対応で回数が増えました。

2. 地域の相談支援体制の強化を行いました。

① 内容

伊賀市障がい者地域自立支援協議会の相談部会事務局運営を通し、相談支援事業所の情報共有と課題解決など相互の連携や調整などを行いました。

相談部会では、65歳になられた利用者の介護保険移行について、障がい特性についてスムーズな移行調整が出来るのかを課題として、検討しました。

開催回数 4回

② 内容

伊賀市相談支援事業所連絡会に参加し、現状の相談支援3層体制（基幹相談支援センター、障がい者相談支援センター、指定特定相談支援事業所）の役割を明確化し相談支援の充実のための協議を継続して行っています。

開催回数 2回

3. 地域移行・地域定着支援を行いました。

① 内容

精神科病院からの相談を受け、退院前カンファレンスに参加し地域移行の支援を行いました。

精神障がい者アウトリーチ体制構築事業を委託している上野病院と連携して対象者の支援にあたりました。

コロナ禍の中で、院内感染防止の観点からカンファレンス事態が従来のような関係者を集めて行えず、情報提供、情報共有で行われました。

4. 権利擁護、虐待防止（障がい者虐待防止センター機能）の支援を行いました。

① 内容

権利擁護に関しては、伊賀市社会福祉協議会の日常生活自立支援事業や福祉後見サポートセンター事業と連携して支援を行いました。

② 内容

虐待防止に関しては、虐待検討委員会への出席と地域包括支援センター内の調整係と連携し、虐待対応を行いました。

緊急性のある事案について、迅速性が求められるので警察や保健所と連携した対応を行いました。

また、虐待内容の改善に向けて虐待者や虐待事業所に対して、複数回に及ぶ面談や調整を行いました。

5. 自立支援協議会と連携し地域の様々な課題に取り組みました。

① 内容

伊賀圏域障がい福祉連絡協議会（伊賀市と名張市合同）の暮らし部会における部会長として事前会議と本会議に出席し、暮らし部会の報告を行いました。

暮らし部会は、精神障がい者地域包括ケアシステムとヘルパー人材育成の二つのワーキングで構成されていますが、それぞれのワーキンググループに出席し進捗状況を把握し、ワーキングの目標に向けた会議に参画しました。

開催回数 事務局会議 4回 本会議 2回

- ② 内容 伊賀市障がい者自立支援協議会（伊賀市単独）の相談部会事務局運営を行いました。

指定特定相談支援事業者のスキルアップや相談実態報告を通じて、現状の分析と課題抽出を行いました。

本年度は、65歳になられた利用者の介護保険サービスについて、障がい特性により障害福祉サービスの併給の在り方やスムーズな移行について、事例を通して協議を行いました。

開催回数 4回

6. その他

- ① いがまち地区高齢・障がい部会研修にて、障がい者支援についての講演を行いました。

参加者：役30名

- ② 各支所地域ケア会議や運営会議に参加しました。

目的 地域における市民の福祉、保健、医療及び介護等に関する多様なニーズに対し、各種サービス等を統合的に調整し、住み慣れた地域で、その人らしい生活が続けることができるための支援策を検討する会議。

地域ケア・運営会議	
支所	回数
上野	5
伊賀	0
島ヶ原	1
阿山	1
大山田	1
青山	1

2022年2月末現在